

普及活動情勢報告（令和5年12月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

室戸市で農業等と福祉との連携がスタート



農福連携について
講演する普及指導員

11月20日、室戸市において、農林水産業者等と福祉との連携を啓発するための、「農・林・水産＋α福祉との連携サミットinむろと」を初めて開催し、関係機関を含め53人が参加しました。

農業改良普及課は、「農業分野から考える農福連携」と題した講演で、農業サイドの労働力不足の実態、農福連携による農業・福祉のそれぞれの効果、安芸の事例紹介などを説明しました。

農家の発表では、農福連携によって「ひきこもり」から新規就農までに至った成功事例が紹介され、その農家からは、「次は自分が生きづらい人を助けていきたい」と力強く語ってくださいました。

農業改良普及課室戸支所では、引き続き室戸市と連携して農福連携の啓発や、就労体験などで支援していきます。

ナスの成育状況の確認と情報収集 ～中芸地区ナス現地検討会～



栽培ポイントを説明する
普及指導員

11月20・28日に、中芸地区ナス現地検討会が開催され、のべ60名の生産者が参加しました。

土耕栽培では、PCお竜、PC鶴丸の栽培ほ場を巡回し、水耕栽培では、新規就農者のほ場を中心に巡回しました。農業改良普及課は、PCお竜の整枝摘葉ポイントや炭酸ガス高濃度施用技術、SAWACHIで目標収量を設定する方法を紹介しました。

参加者は、お互いの栽培方法について議論したり、SAWACHI画面を見せ合うなど活発に情報交換を行っていました。また、炭酸ガス施用濃度を見直すという声もありました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会などの機会での栽培管理技術とSAWACHIの活用方法を紹介し、収量・品質の向上を支援します。

東洋町ポンカン振興対策協議会総会の開催



総会で協議する参加者

令和5年11月21日、生産者代表・役場・JA・県で構成される東洋町ポンカン振興対策協議会の総会が開催され、生産者代表3名を含む10名が出席しました。

農業改良普及課室戸支所は、今期の活動計画である「鳥獣対策」「後継者対策」「販促イベント」などを提案した結果、すべての活動で計画通り進めていくことが承認されました。

早速、12月8日にポンカンPR活動のために「とさのさと」に打合せに出向くなど新しい取り組みも始めました。

農業改良普及課室戸支所は、今後も東洋町の特産ポンカンの産地維持のため、協議会活動支援に取り組めます。

データを分析して栽培管理に繋げよう ～赤野支部園芸研究会勉強会～



メモを取りながら
話を聞く生産者

12月5日、赤野支部園芸研究会が赤野集出荷場で勉強会を開催し、生産者22人が参加しました。農業改良普及課はSAWACHIで収集した出荷量と環境データの分析結果について説明しました。また担い手育成センターのナス担当者からは単為結果性品種の低夜温帯における栽培実証結果を報告しました。

参加者からは「出荷量と外気温は関係がありそうだね。」「単為結果性品種も夜温をしっかりと確保して栽培しよう。」といった声が聞かれ、環境制御に対する関心が高まりました。

農業改良普及課は、今後もSAWACHIのデータを活用しながら栽培技術の向上に向けて支援します。

安芸地域の新たな担い手の活躍に期待 ～令和5年度農業基礎研修講座～



栽培後期の管理について
講義する普及指導員

12月13日、新規就農者の栽培技術向上と経営の安定化を図ることを目的に令和5年度最後となる第6回農業基礎研修講座を開催し、研修生を含む17名が参加しました。農業改良普及課の職員が講師となり、栽培後期の栽培管理、資金繰りについて講義しました。

参加者からは、「基本的な部分を学べて良かった。今後に役立てていきたい」などの声が聞かれました。

農業改良普及課では、引き続き新規就農者等への支援を継続するとともに、次年度も同講座の内容をさらに充実させていきます。

地域の農地は自分たちで守ろう ～奈半利町地域計画座談会～



有望品目について説明を
する普及指導員

12月19日、奈半利町大原西ノ平地区生活改善センターで地域計画作成に向けた4回目の座談会を開催し、関係機関を含め19名が参加しました。

農業改良普及課が有望品目の栽培について説明した後、「この土地は10年後に誰が作っているのだろう」と皆で地域の拡大地図を囲みながら話し合いました。「昨年まで稲を作っていたが、今年は放置されている。少し手を入れればまた作れる」「ほ場整備できたら、ここに有望品目を植えて、管理は組織で行ったらどうか」などの声が聞かれました。

農業改良普及課では、引き続き地域の農地が活用されるよう支援をしていきます。